

# 神々に愛されたピアノ —スタインウェイのファミリービジネス—

(株)日本設備工業新聞社  
代表取締役社長 高倉克也

ハインリッヒ・エンゲルハルト・シュタインヴェグはドイツからアメリカに渡ってヘンリー・エンゲルハート・スタインウェイと改名した。家族も一緒に英語風の名前に変えたのは一家で永住する覚悟を固めたからだ。ヘンリーは息子たちとスタインウェイ&サンズと名づけた会社を設立し、ピアノ製造の最高級ブランドとして全世界に知られるようになる。

スタインウェイによるアメリカン・ドリームは伝統的な職人技、音響工学を駆使した技術革新、そして家族それぞれの才能を活かした連携プレイによって実現した。歴史の風雪に耐え、もっとも成功したファミリービジネスの結晶としてスタインウェイのピアノは<神々の楽器>と讃えられた。

## 片道切符でニューヨークへ

創業者のヘンリーは1797年、ドイツ北西部の寒村で森を守る林務官の息子として生まれた。幼い頃にナポレオン戦争で父と兄たちが徴用され、残された母や兄弟は食糧難で餓死、15歳のときに落雷による火災ですべての家族を失う。

孤児となったヘンリーは軍隊に入り、ワーテルローの戦いに従軍する。戦場ではラッパ手を務め、楽器に接しているときが唯一のなぐさめだった。

かろうじて生還したヘンリーはオルガン工場の職人となり、もともと得意だった木工技術に磨きかけた。やがて自前の修理工房を構え、仕事の

かたわら当時流行しつつあったフォルテピアノの魅力に憑りつかれる。

独自のピアノづくりに熱中したヘンリーは1836年、10年以上かけて念願のグランドピアノを完成させた。自宅のキッチンで誕生したピアノ第1号はキッチン・ピアノと呼ばれ、のちにニューヨークのメトロポリタン美術館に展示される。

1839年、グランドピアノとスクエアピアノを州の展示会に出品して1等賞に輝く。結婚して家庭をもうけたヘンリーはピアノづくりの基礎を息子たちに学ばせた。響板に使う木材の選び方、鍵盤の切り出し方、弦の張り方、ハンマーの作り方、均一に音色を揃える方法など決して妥協を許さず常に最高の仕上がりをめざした。

ヘンリーのピアノは高く評価されたものの、政情不安による物価の高騰で国民の生活は逼迫し、やむをえず製造を中断する。語学に堪能な次男のカールは新天地を求めてアメリカに渡り、一家総出で移住することを熱心にすすめた。

1850年、すでに結婚していた長男のテオドール



ヘンリー・スタインウェイ

を故郷に残し、一家はハンブルグからニューヨークへ出航した。ヘンリーは53歳、妻のユリアンは46歳の決して後戻りできない片道切符の旅立ちだった。

## 芸術と文化のシンボルに

5カ月かけてようやく辿り着いたスタインウェイ一家は英語もろくに話せないままピアノ工場では働きはじめた。息子たちもカールはチャールズ、ハインリッヒ・ジュニアはヘンリー・ジュニア、ウィルヘルムはウィリアムと改名した。

3年後の1853年、ヘンリーはスタインウェイ&サンズの商標で待望のピアノ製造会社を設立する。当初はマンハッタンの小さなロフトでスタートしたもの、しだいに信用を高めて社員を雇うようになった。

1855年、クリスタルパレスで開かれた博覧会に3男のヘンリー・ジュニアの設計によるスクエアピアノを出展する。大きなコンサートホールでも演奏できるように総鉄骨フレームに弦を交差させて張った改良型スクエアピアノはゴールドメダルを獲得し、新聞で「素晴らしい音の力、低音部の深みと豊かな音、中音部の柔らかさ、そして高音部の輝かしいまでの純粋さ」と絶賛された。

1862年のロンドン万国博覧会では交差弦式のグランドピアノが金賞を受賞し、スタインウェイの名声は全世界に広がった。ところが1865年、チャールズとヘンリー・ジュニアが相次いで病死するという予期せぬ不幸に見舞われる。

ドイツでピアノを製造していたテオドールは急遽渡米し、セオドアと改名して技術部門の責任者となる。音響学を学んだセオドアは高名な物理学者のヘルツホルムと親交を深めてピアノの音色を科学的に分析し、飛躍的に品質を高める数多くの特許を取得した。

販売戦略は社交的な4男のウィリアムが担当した。1864年、マンハッタンの14番街にスタインウェイのピアノ100台以上を陳列したショールームを開設。1866年にはショールームの隣に2000人を収容するスタインウェイ・ホールを建設した。観客は必ずショールームを通してホールへ行くように設計された。

スタインウェイ・ホールは芸術と文化のシンボルとなり、1891年にカーネギー・ホールが誕生するまでニューヨーク交響楽団の本拠地となった。

## 受け継がれた誇り高き魂

1871年、父のヘンリーが亡くなり、セオドアとウィリアムが共同経営者として事業を受け継いだ。1877年にロンドン支店、1880年にハンブルグ支店と新工場を開設。1881年にはピアノの魔術師と崇められたリストのピアノを製作するなど名実ともにトップブランドとして欧米の市場を席卷した。スタインウェイの金属フレーム、交差弦、共鳴板などはスタインウェイ・システムと呼ばれ、現代ピアノの基本形として他のメーカーも追随した。

企画・宣伝面ではコンサート&アーティスト部を新設し、ルビンシュタイン、パデレフスキー、ラフマニノフ、ホロヴィッツらのスタープレイヤーによる演奏会を繰り広げた。スタインウェイを愛用する彼らはスタインウェイ・アーティストとしてクラシックからジャズ、ポップスの分野へと広がった。ピアノ・マンなどのヒット曲で知られるビリー・ジョエルもそのひとりだ。

2つの世界大戦を乗り越えて隆盛を誇っていたスタインウェイも1960年代後期から陰りが見えはじめた。かわってヤマハやカワイに代表される安価で安定した品質の日本製ピアノが急激に台頭する。1972年、スタインウェイはCBSコロムビアグループに買収され、5代にわたる家族経営は終焉を迎えた。

経営主体は代わってもスタインウェイの原点であるクラフトマンシップは現在も引き継がれている。オートメーションによる流れ作業は採用せず工程の8割を個々の職人が手がけるマイスター制を導入。文書化したマニュアルも存在せず設計図は金庫にしまわれたままだという。現場で技術を極めた職人たちがそれぞれの個性を発揮しながらイニミタブルトーン（比類なき響き）といわれる至高のサウンドを創っている。

スタインウェイのクラフトマンシップとは孤独な少年時代を過ごした創業者のヘンリーが家族と共に最高のピアノづくりに打ち込んだ誇り高き魂にほかならない。